

薬局薬剤師のトレーシングレポートが高齢者のアドヒアランスに及ぼす影響

吉田 尚美¹⁾、山中 彩花²⁾、牧野 史弥³⁾、佐藤 展宏⁴⁾、前田 守⁵⁾、長谷川 佳孝⁵⁾、
月岡 良太⁵⁾、森澤 あずさ⁵⁾、大石 美也⁵⁾

- 1) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 堀川店
- 2) 株式会社インファーマシーズ アイン薬局 中村日赤店
- 3) 株式会社インファーマシーズ いわせ薬局
- 4) 株式会社インファーマシーズ
- 5) 株式会社インホールディングス

【目的】地域包括ケアシステムにおいて保険薬局が求められる機能を発揮するためには、医療機関との連携が重要となる。そこで、連携手段の一つであるトレーシングレポート(TR)の運用状況を把握し、高齢者のアドヒアランスへの影響を調査した。

【方法】2018年1月～12月に当社が中部地域8県で運営する保険薬局50店舗にて、65歳以上の患者を対象に実施されたTRを回収した。TRは目的別に「減薬提案」「アドヒアランス向上」「残薬調整」「服用状況」「体調変化」「その他」に分類し、「対象患者の服用薬剤数」「処方変更の有無」「処方変更後のアドヒアランス」を分析した。尚、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0014)。

【結果】回収した183件のTRの目的は「残薬調整(37.1%)」「アドヒアランス向上(21.9%)」「減薬提案(13.1%)」「服用状況(13.1%)」の順に多かった。「アドヒアランス向上」に着目すると「対象患者が6剤以上服用している割合」と「TRの提出が処方変更に至った割合」は、それぞれ73.7%、54.2%であった。処方変更に至った事例のうち80.8%にアドヒアランスの向上が確認できた。

【考察】アドヒアランス向上を目的としたTRは残薬調整に次いで多く、その半数が処方変更に至り、処方変更された約8割にコンプライアンスの向上が見られたことから、薬局薬剤師のTRによる介入が高齢者のアドヒアランス向上に大きく貢献していることが示唆された。また、アドヒアランス向上を目的としたTR対象患者の約7割が6剤以上服用しているポリファーマシーであり、これがアドヒアランス低下の要因の一つであることも示唆された。今後は更なる高齢化の進行に伴い、高齢者のポリファーマシーが増加することが容易に予想される。今後もTRを有効活用し、高齢者のアドヒアランス向上にむけて貢献したい。

(第29回医療薬学会年会(2019年11月,福岡)にて発表,一部要約)